

(様式2)

## 「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書(企画・引率者用)

平成27年3月12日

所属・職名：工学資源学研究科 地球資源学専攻・教授

氏名：今井 亮

研修期間：平成26年8月5日～平成26年8月19日

および平成26年9月9日～平成25年9月24日

研修先：英文 University of the Philippines, APEX Mining Corporation Masara Mine, MACROASIA Mining Corporation, Philex Mining Corporation Bulawan Mine, and others

：和文 フィリピン大学, APEX MINING 社 Masara 鉱山, MACROASIA MINING 社, PHILEX MINING 社 Bulawan 鉱山ほか

### ○研修成果

フィリピン大学国立地質学研究所および、APEX Mining 社, MACROASIA Mining 社、PHILEX Mining 社の共同研究者の協力のもとで、APEX 社の Masara 鉱山のインターンシップと金鉱化帯の坑内調査実習（鴻巣）と周辺の銅鉱微地の野外調査実習（阿部）およびネグロス島の斑岩型銅一モリブデン鉱床探査の野外調査実習（斎藤）を実施し、鉱業国での資源探査における地質学鉱床学の役割を理解し、またそれぞれの卒業論文のための研究試料（岩石試料）を採取することができた。

しかしながら、計画していたもう1名（大学院修士課程の米田）は、鉱山会社との間で日程を決定し、航空券の手配も行なっていたが、体調がすぐれず、研修は中止となった。

### ○研修全般にわたる感想

大学院生の斎藤の海外での研修は2回目であり、今回は現地の研究者とのコミュニケーションなど、自ら積極的に行ない、主体的に行動でき、成長が実感できるものとなった。本研修事業への参加が、将来、資源分野で海外で活躍するための一助になったとすれば幸いである。しかし、一方、学部生で今回初めて研修を行なった鴻巣と阿部についても先方から厳しく報告書が要求されており、研修に派遣することによって生じる社会的責任を改めて痛感せざるを得なかった。